

目次

まへがき	一
第一章 白氏文集と平安朝文学	一一
第一節 唐代文化の日本への輸入	一一
第二節 白居易が唐代文壇に占める地位	一八
第三節 白氏文集の日本への輸入	二二
第四節 平安朝文学に与えた白氏文集の影響	二七
第五節 白氏文集と日本文学	三〇
第二章 清少納言、枕草子について	三九
第一節 枕草子の時代背景	三九
第二節 平安時代女性の教養	四四

第三節	清少納言の生涯	四八
第四節	清少納言と中宮定子	五〇
第五節	枕草子の内容	六七
第六節	清少納言と紫式部	七二
第七節	枕草子と徒然草	七七
第八節	枕草子と雑纂	八〇

第三章 白氏文集を通して見た、枕草子諸段

第一節	白氏文集引用の諸相	八五
	(1)文集卷十七「廬山草堂」との関係	八五
	(2)文集卷四「新楽府」引用部分に見る清少納言の漢才	九二
第二節	「琵琶行」と枕草子	九四
第三節	「あきのつきのころ」の「心」字の新解釈	一〇四
第四節	文集卷十四「南秦雪」引用に見る清少納言の創作力	一一〇
第五節	文集卷九「秋題牡丹叢」をめぐって	一一五
第六節	模倣を脱却した白詩引用	一二〇

第七節 文集卷十六「香炉峯下新卜山居」引用に見る清少納言の機智……………一二八

第八節 「梨花」に見る中日美意識の違い……………一三二

第九節 清少納言と「月」と白氏文集——その関連についての反省……………一四一

第四章 清少納言自然観及び執筆の動機——第一段と

中心として……………一六七

第一節 「春はあけぼの」の文学史の意味……………一六七

第二節 「秋は夕暮」に見る中日自然観照考……………一九四

第三節 歌題「秋夕」の歴史的変遷と枕草子の与えた影響……………二〇四

第五章 清少納言に与えた漢籍の影響……………二三三

第一節 書名中の「枕」とは——その漢籍との関連……………二三三

第二節 清少納言の人性観と批判的、流動的な自然描写……………二四七

第六章 むすび……………二五三

第一節 枕草子中の和歌と白氏文集との比重……………二五三

第二節 知性の作者清少納言と素材としての白氏文集……………二七二

第三節 枕草子に見られる「白氏文集」受容の姿……………二七八

参考文献……………二九一